

小・中学校の先生のための自立活動の指導プロセス解説

すんなり自立活動



はじめに

「すんなり自立活動」は、自立活動の指導プロセスを小中学校の先生向けに解説した小冊子です。特別支援学級や通級指導教室を初めて担当する先生を思い浮かべながらつくりましたが、ある程度経験を積まれた先生や、特別支援学校、高等学校の先生にも参考にしていただける内容を目指しました。

この小冊子では、自立活動の指導について、指導計画の作成から評価までの一連のプロセスを1つずつ順番に解説しています。

平成29年3月に告示された特別支援学校学習指導要領の内容と、現在多くの学校で行われている個別の指導計画に基づく一般的な指導プロセスの両方を踏まえながらつくりました。

多くの先生方に手に取っていただき、よりよい指導が子供たちに届くきっかけになれば、とてもうれしいです。

茨城県教育研修センター特別支援教育課

自立活動の指導に関するキャラクター 「じりっきー」です！



○人として生きるための、心身の調和的発達の基盤をつくるのが自立活動の指導の役割であると考えます。「木」にたとえるとその基盤は、全体を支える「根っこ」の部分です。このキャラクター誕生には「木を支えられるしっかりとした『根っこ』を育てられるよう、『自立活動の指導』を頑張りましょう」というメッセージがこめられています。自立活動の指導によって、子供たち一人一人が障害による困難さを改善・克服し、一人一人が今もっている力を伸ばし、力強く成長していくことを願っています。

○色とりどりの6つの木の実が自立活動の6区分を表しています。

STEP

0

自立活動・・・？

指導プロセスの解説の前に、そもそも自立活動って…何ですか？



困難さにアプローチする指導領域です

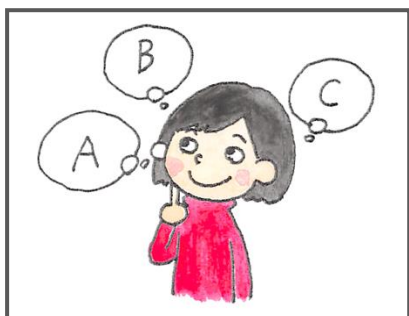
日常生活や、国語や算数といった各教科等の学びに立ちはだかっている“障害による困難さ”を、子供が主体的に改善・克服できるようにするための指導領域です。自立活動で日常生活や各教科等の学びを支える、そんなイメージです。



必ず指導します

特別支援学級でも通級指導教室でも必ず指導します。ただし、どの時間に指導するか*や指導時間は学校や子供の実態に応じて決めることができます。

※生活単元学習などの教科等を合わせた指導の時間などに、自立活動の内容を指導することもあります。



指導内容はリストアップして組み合わせで決めます

国語や算数等の各教科等は、原則として学習指導要領に示されている内容すべてを指導します。一方、自立活動は学習指導要領に示されている内容のすべてではなく、子供の実態に応じて、選んで組み合わせで指導します。



個に応じた指導が基本です

“障害による困難さ”は子供一人一人違うので、個に応じた指導が必要不可欠。そのため自立活動の指導は、個別指導で行われることが多いです。ねらいの達成に効果的な場合は集団で指導することもあります。集団での指導ありきではありません。

こんな自立活動は残念！



集団指導が前提の自立活動

例えば時間割上、自立活動の時間になると在籍の子供全員が学級に来るため、集団指導が前提になってしまっている…



活動ありきの自立活動

例えば「すごろくトーク」といった“活動ありき”で、後付けで自立活動の6区分27項目を当てはめてしまっている…

自立活動の基本は個別指導

ねらいの達成に効果的な場合は、集団で自立活動を行うこともありますが、“困難さ”は一人一人違うので、個別指導の形態で行われることが多いです。

“困難さ”が出発点

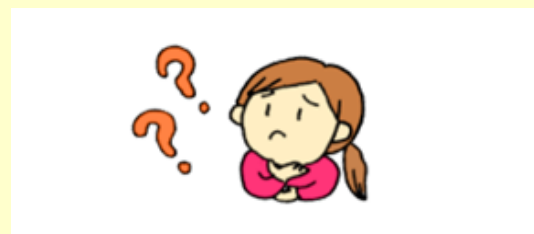
“困難さ”にアプローチするため何を指導すべきかを考えることが、自立活動の出発点です。詳しいプロセスは、この冊子で解説しています。

※“こんな困難さにはこんな手立て”の具体は「自立活動実践事例集」を参考にしてください…



自立活動の時間に教科の補充指導ばかりしている（通級による指導）

通常の学級の授業がどんどん進んでいくので、それに追いつくために教科の補充指導ばかりしてしまっている…



生活単元学習と自立活動の区別がない（特別支援学級）

例えば、公共交通機関の利用方法の習得を目標とした校外学習の事前指導を、自立活動の時間にしている…

自立活動のメインは“困難さ”へのアプローチ

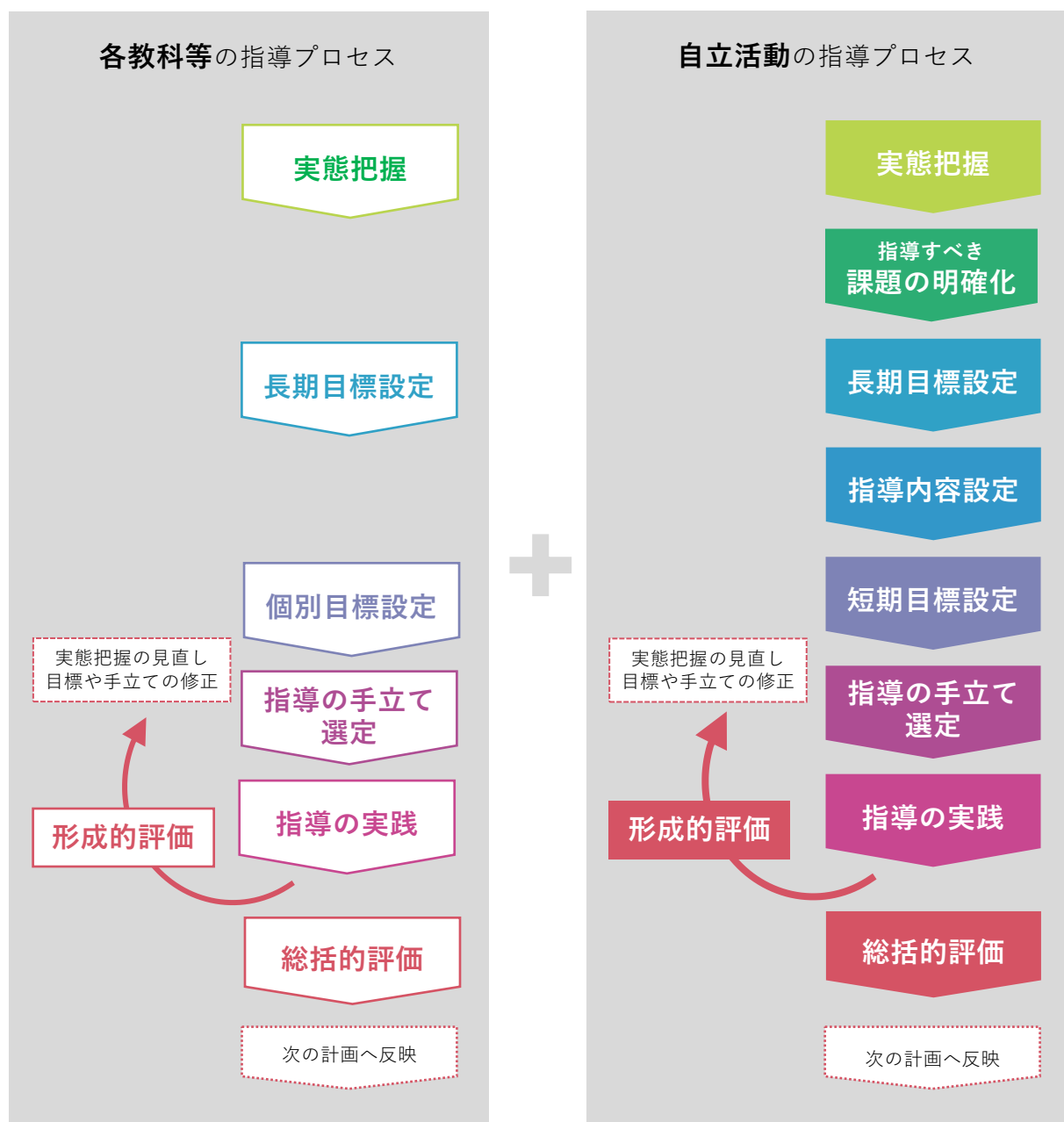
自立活動の時間のねらいは、あくまでも“困難さ”へのアプローチ。教科の内容を扱うのは“特に必要なとき”に行うのであって、メインではありません。

自立活動のねらいは学習等を妨げている“困難さ”へのアプローチ

例えば、公共交通機関の利用方法習得を妨げている“左右感覚が身に付いていない”という困難さを自立活動で改善することはあるかもしれません。

指導のプロセス

自立活動の指導プロセスは、各教科等のプロセスとは少し違います。この小冊子では、各教科等の指導のプロセスとの関連を重視した次ページのような指導プロセスを提案しています。



STEP
①

この小冊子で提案している指導プロセス

実態把握

子供の実態についての情報を集めて、整理します。

STEP
②指導すべき
課題の明確化

整理した情報を精査して、中心的に指導すべき課題を、根拠を示しながら明確にします。

STEP
③

長期目標設定

明確にした課題を踏まえて、1年間で達成を目指す目標を設定します。

STEP
④自立活動
指導内容
設定

リストアップ

組み合わせる

まず、長期目標を達成するために自立活動で指導すべき要素を自立活動の内容6区分27項目を観点にリストアップします。

そして、リストアップした要素を組み合わせる具体的な指導内容を設定します。

STEP
⑤自立活動
短期目標
設定各教科等
個別目標
設定

自立活動と各教科等を関連付けながら1学期もしくは半期で達成を目指す目標を、それぞれ設定します。(自立活動は設定した具体的な指導内容を、各教科等の指導は長期目標を踏まえてそれぞれ設定)

STEP
⑥自立活動
指導の手立て
選定各教科等
指導の手立て
選定

自立活動の短期目標・各教科等の個別目標を達成するための指導の手立てを、それぞれ考えます。

STEP
⑦

指導の実践

計画に基づいて指導の実践をします。

実態把握の
見直し
目標や手立
ての修正

形成的
評価STEP
⑧総括的
評価

目標の達成度や妥当性、指導内容・手立ての評価をします。指導を展開しながら形成的評価を行い、1学期や半期の指導期間後に総括的評価を行います。

次の計画へ反映
次の計画へ

評価を踏まえて、実態把握を見直し、次の計画に反映させます。(形成的評価の場合は次の授業へ反映)

STEP ①

実態把握

実態把握とは、その子供に関する情報を集め整理するプロセス、指導の出発点です。
以下の点を大切にしながら実態把握を進めたいです。

たくさんの目で



関わる人や場所が違えば、子供が見せる姿は違います。本人に関わる機会のある複数の教員や、保護者など、できるだけたくさんの人から情報を集めて、子供の姿にせまりたいです。

みとり・よみとり・ききとり



色々な方法で情報を集めることで、多面的な実態把握を目指します。

行動のみとり(チェックリストも活用)、作品のみとり…
検査結果のよみとり、引き継ぎ資料のよみとり…
いろいろな人(本人,保護者,他の教員…)の話のききとり…

“できる”に光を



困難さにアプローチする自立活動こそ、意識的にその子の“できること”に光を当て、活用したいです。これまでの学びや生活経験の積み重ねからできるようになったことはたくさんあるはず。

先生のお手伝いが得意で大好きな子には、そのことを活用して、他者とのやりとり指導で、“学校内のお遣い”という活動を設定する、なんていう生かし方も素敵ですね。

虫めがねで観察を



特に困難さについては、虫めがねで観察するイメージで細かい部分までしつこく把握。これが、困難さの原因探しにつながります。

友達を叩いてしまう

叩いてしまうことが多い時間帯・場所は？
直前に何があった？
叩く前後の周りの子の様子は？
特定の子しか叩かない？
叩いた後の先生の対応は？
叩かないで済んでいるときは？(例外探し)
など…

集めた情報は、一定の観点に沿って整理すると指導に生かしやすいです。(次のページにあるような、「プロフィール」や「実態表」という形で整理している学校が多いと思います。)

実態把握した情報の整理の観点いろいろ

氏名		学年 組	記入日		記入者	
障害の状況等						
家庭環境						
関係機関						
学校生活の様子	領域	気になること・困っていること		興味のあること・得意なこと		
	学習					
	行動					
	対人					
	言語					
	生活					
本人の願い						
保護者の願い						
教師の願い						

◀ 国立特別支援教育総合研究所「小・中学校に在籍する特別な配慮を必要とする児童生徒の指導に関する研究」より

(平成 18 年 3 月)

氏名 ○○○○(性別)	活動・参加	
年 月 日生 年 組	注意 注意を向ける[見る,聞く], 注意を集中するなど	
子供の願い思い	基礎的な学習 読み,書き,計算,模倣,概念学習,対応など	
心身機能・身体構造	問題解決,意思決定,推理,思考など	
	ストレスへの対処,危機への対処,責任感 待つ,時間切迫,緊張状態など	
	コミュニケーション 話し言葉の表出や理解,会話,携帯電話やメールの活用,他者の意図理解など	
	運動・移動 微細運動,粗大運動,姿勢の保持,交通機関の利用など	
	セルフケア 更衣,排泄,飲食,健康に対する意識など	
	家庭生活 整理整頓,掃除,手伝い,家事,他者のお世話など	
	対人関係 思いやり,感謝,挨拶,友達作り,家族関係,恋愛,場の空気を読む,協力,決まりを守るなど	
環境 物,教室環境,友達,職員,動物,制度体制など	学校生活への参加状況 登校状況,授業への参加状況,委員会活動,クラスでの役割など	
	遊び,趣味,スポーツ,芸術,工芸,など	
	その他 行動面でのこだわり, 偏った興味関心など	
保護者の願い思い		

▲ 国際生活機能分類(ICF)を参考にした観点表 (試案)

障害の状態,発達の段階,興味・関心,学習や生活の中で見られる長所やよさ,課題等についての情報収集					
収集した情報を自立活動の区分に即して整理する段階					
健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
収集した情報を学習上又は生活の上の困難,これまでの学習の習得状況の視点から整理する段階					
収集した情報を○○年後の姿の観点から整理する段階					

▲ 文部科学省「特別支援学校学習指導要領解説自立活動編」(平成 30 年 4 月)に例示された実態把握のプロセス

STEP ②

指導すべき課題の明確化

実態把握で集めた多くの情報が、なぜその長期目標につながったのかという根拠を明確にし、説明するプロセスです。平成 29 年に告示された学習指導要領で新たに示されました。例えば、以下の観点から、情報を整理したり取捨選択したりしながら、指導すべき課題を明確にしていきます。

子供の
実態

なぜ？

長期
目標

指導すべき
課題

今の学習・生活における優先度

今の学習や生活を充実したものにするために、優先的に取り組む課題を考えてみることもできます。

つまずき同士の 関連性

「板書しにくい、連絡帳が書けない、漢字の習得が苦手」といったつまずきの背景には、運筆能力の低さという同じ原因があるかもしれません。漢字の習得の苦手さが原因となって、板書しや連絡帳書きができないのかもしれません。このようにつまずき同士の関連性を考えながら、どのつまずきにアプローチすると最も効果的な指導が展開できるかを判断し、優先的に指導すべき課題として取り上げる、といった方法も考えられます。

指導効果の見込み

例えば、数年間指導してきたけれども思ったように指導効果が上がらない内容や、ある程度指導目標が達成されてその後は現状維持を目指す内容については、指導すべき課題から外して、合理的配慮で対応するといった方法も考えられます。

数年後・卒業後に 目指す姿との関連の強さ

子供の数年後や卒業後の目指す生活を想像しながら、それと関係の弱い内容は指導すべき課題から外してみるといったことも考えられます。

子供自身や 保護者の願い・ニーズ

子供自身が頑張りたいことや、保護者が頑張らせたいことなどを優先しながら指導すべき課題を考えることもできます。

子供の実態 ▶ 指導すべき課題 ▶ 長期目標 の例

(A 子) [実践事例集]

実態



小2女子

週3回

通級指導教室で学習



保護者

・話をあまり聞かずに、考えることなく行動することが多いのが気になる…



学級担任

・授業の自力解決場面では、自分で考えることをせずに、隣の友達のノートを写して済ます。

・お話は大好きで上手。しかし言いたいことだけを一方的に言う。

・教師の指示をよく聞きもらす。授業中は、よそ見をしたり手遊びをしたりして、教師の話に注意を向けることが難しい様子。

・一斉指示場面では、友達の行動を見てワンテンポ遅れて行動し始める。

・時折思い込みで行動をしてしまい、周囲とズレた行動や失敗をしてしまう。

・先生のお手伝いや係の仕事が大好きで、一生懸命に取り組む。



通級指導教室
担当

・行動全般が“雑”。多くの場面でよく考えずに行動し、適当に済ませてしまう。

・1年生までの計算力はある。国語よりは算数が得意。

・過去に経験したことややり慣れたことには、手順通りに上手にこなせることが多い。

指導すべき課題

中心的な課題

「よく考えずに行動し、学習や活動に進んで取り組もうとしない」

中心的な課題とした理由

保護者、学級担任共に気になることとして挙げている。

“考える姿勢”を身に付けられれば、今後のA子の学力向上にとって大きなプラスになるのでは…

“考える姿勢”を身に付けられれば、生活面での失敗も減り、より生き生きと成長できるのでは…

推定される背景要因

- ・教師の話に注意を向ける力の弱さ
- ・話の理解力や記憶力の弱さ
- ・考える学習や活動へのあきらめや後ろ向きな態度

長期目標

教師話を聞いて、自ら進んで学習に取り組むことができる。

STEP
③

長期目標設定

前のプロセスで明確になった「指導すべき課題」を踏まえながら、1年間という比較的長いスパンで達成を目指す、指導の大きな方針を決めるプロセスです。ポイントは次の3つです。

成果が目標

過程は目標じゃない

学習や練習をすること（過程）ではなく、それによってな
にができるようになるのか（成果）を目標にします。



1年間毎日、先生の読み聞かせを聞く。



（読み聞かせを通して、語彙を増やし）話し言葉や短文で自分の気持ちを表現できる。

肯定的な目標

“～しない”は目標として適切じゃない

“～しない”という目標は子どもの主体性を損ねます。また、
“～しない”ことは、往々にして傍から観察するのが難しい
ので評価がしづらいです。



パニックを起こさない。



（パニックを起こさずに）話し言葉や短文で自分の気持ちを表現できる。

主語は子ども

先生の目標じゃない

学習の主役は子どもです。また、子ども自身が目標を意識
することで、学習の効果は確実にあがります。



話し言葉や短文で自分の気持ちを表現させる。

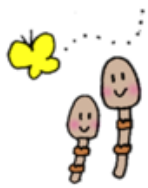


話し言葉や短文で自分の気持ちを表現できる。

自立活動の指導の時間確保の工夫

自立活動の指導については、「自立活動、大切なのは分かるけど、通常の学級の教科学習の進度を考えると時間がない」、「自立活動は個別での指導が基本とはいえ、個別指導の時間なんてとれない…」という難しさを耳にします。そんな難しさへの対応として、研究協力員の先生方がしている工夫をいくつか紹介します。

学期初めに優先して時間割を組ませてもらう



年度始めの時間割編成で特別支援学級や通級指導教室の時間割を最初に組ませてもらい、それに合わせて通常の学級の時間割を組んでもらうことで、1対1の指導時間が確保できるようにするという工夫も考えられます。

自立活動の指導時間を授業時間外や帯で確保する



朝自習や放課後といった時間を活用したり、国語の時間の開始10分間を自立活動の時間として帯で確保し、その後教科の学習をしたりするといった工夫も考えられます。

自立活動の指導を取り入れながら教科学習を行う

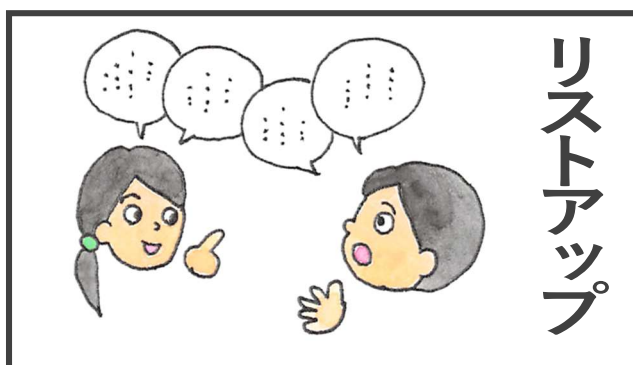


- ・姿勢保持力を高めるために、テニスボールを踏みながら教科の授業をします
- ・視覚認知力を高めるために、漢字の間違い探しや書き取りを題材にするといったように、教科学習と同時に自立活動の指導を行ったり、教科学習の内容を題材にして自立活動の指導を行ったりといった工夫も考えられます。

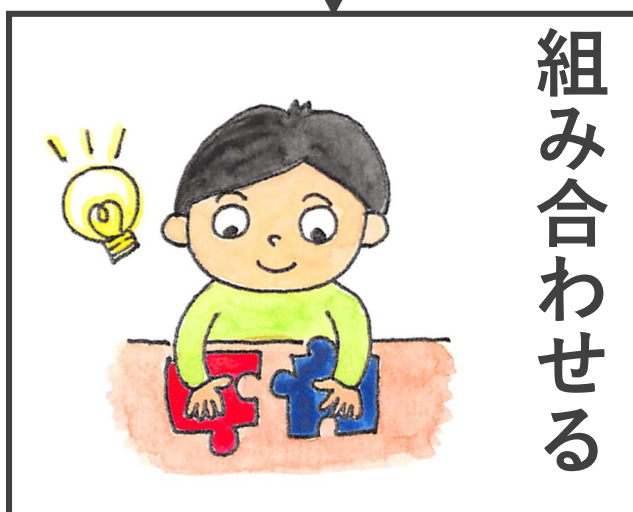
STEP
④

指導内容設定

各教科の具体的な指導内容は学習指導要領に示されていますが、自立活動の具体的な指導内容は長期目標を達成するために、自立活動で指導する内容を考えるプロセスです。次の2つの段階を踏んで進めます。



まず「長期目標を達成するために何を指導すればいいのかな？」と、特別支援学校学習指導要領にある自立活動の内容6区分27項目を観点にして検討し、指導が必要な要素をリストアップします。自立活動のターゲットである困難さの原因は1つとは限りません。そのため、様々な観点から指導する内容を検討する必要があります。



そして、洗い出した要素を組み合わせ、具体的な指導内容を設定します。例えば、関連性の高いもの同士を組み合わせれば指導効果の高まりが期待できます。実際の学習や生活の場面を踏まえながら組み合わせれば、自立活動で学んだことが実際の学習や生活で生かしくなります。

以下の点も大切にしながら、具体的な指導内容を設定します。（学習指導要領による）

- －興味をもって主体的に取り組み、成就感を味わい、自己を肯定的に捉えることができるように
- －困難を改善・克服しようとする意欲を高めることができるように
- －発達の遅れている面を補うために、発達の進んでいる面をさらに伸ばすことができるように
- －自ら環境を整えたり、周囲の人に支援を求めたりすることができるように
- －自己選択・自己決定する機会を設け、思考・判断・表現する力を高めることができるように
- －自立活動を学ぶ意味を将来の自立や社会参加との関係で理解することができるように

長期目標 ▶ リストアップ ▶ 組み合わせ の例

(A 子) [実践事例集]

長期目標

教師の話聞いて、自ら学習に取り組むことができる。

「話を聞いて進んで学習に取り組めるようになるために、必要な力は何かな…？」といった感じで困難さの背景要因を推定しながら、6区分27項目を観点にして、チェックリスト的に指導が必要な要素をリストアップしました。



指導内容設定

項目 リストアップ	健	心理的な安定	人	環境の把握	身	コ
		(2)状況の理解と変化への対応 場面に応じた行動の定着	(3)困難の改善・克服する意欲 考える学習にも前向きに取り組もうとする意欲の育成	(2)感覚や認知の特性についての理解と対応 聞くことに対する意識の向上 聞いたことを覚える力の向上		
具体的な指導内容 組み合わせ	先生の口頭でのお話の内容を正確に聞き取り覚え、それに応じた行動をする（先生のお手伝いなど正確にこなす）。			通常の学級における学習内容の簡単な予習や教師による事前予告から、見通しをもつ。		

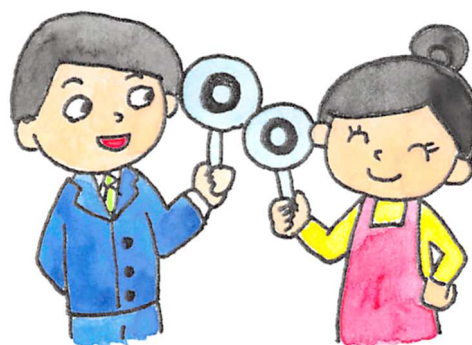
他者のお話を聞くことに対する意識の向上【環(2)】と、聞いたことを覚える力の向上【環(2)】、成功体験の積み重ねによる学習に対する前向きな意欲の育成【心(3)】というねらいを組み合わせ設定しました。また、「仕事が好き」という A 子の良さを生かして、指導の題材として先生のお手伝いをする、という活動を取り入れようと考えました。

STEP 5

短期目標設定

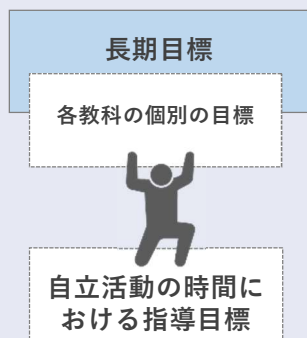
1 学期や半期で達成を目指す具体的な目標を設定するプロセスです。

キーワードは下支えと 2つの側面, そして具体的で誰もが同じ基準で○×評価可能です。



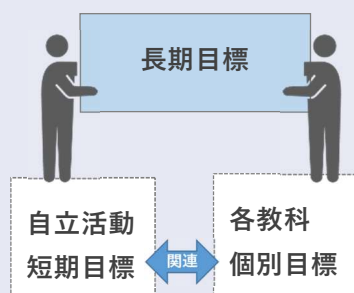
下支えと 2つの側面から

自立活動が各教科の学習を”下支え”



各教科の学習を進める上での困難さに自立活動の指導でアプローチします。各教科の個別の目標達成を自立活動の指導が“下支え”するイメージです。

自立活動と各教科の”2つの側面から”



長期目標達成のために、「各教科の指導」と「自立活動の指導」を関連させた目標を設定し、2つの側面からアプローチします。

具体的で、誰もが同じ基準で○×評価可能

誰もが同じ基準で○×評価ができる具体的な目標を設定することで、複数の教員間だけでなく、子供自身や保護者とも同じ基準で評価できるようになり、がんばりの成果を共有しやすくなります。○×評価可能な目標を設定するための視点としては以下のようなものがあります。

- ・ 第三者が観察可能な”行動”を目標にする
(△観察不可：考える, 聞く, 理解する…
○観察可能：書く, 話す, 読む…)
- ・ 達成基準を数値などで明確に示す
(x回できる, x回中y回できる,
x分間できる, 授業の間できる…)
- ・ 評価の方法を示す
(ノート記述で, テストで, 作品で…)
- ・ 評価の条件を示す
(教師の言葉かけを受けて, 独力で,
見本を見ながら…)

自立活動と各教科の短期目標の関連 の例

下支えの例

(A 子) [実践事例集より]

長期目標

教師の話聞いて、自ら学習に取り組むことができる。

算数個別目標

自力解決場面で、自分の考えを独力でノートに書き始める回数を増やすことができる。



自立活動短期目標

先生から3ついっぺんに口頭で指示されて、その通りに行動することができる。(聞くことに対する意識の向上、聞いたことを覚える力の向上)

話を聞いて自ら活動に取り組むという長期目標を具体化した算数の短期目標達成を支えるために、自立活動で聞くことに対する意識の向上や聞いたことを覚える力の向上をねらいます。それによって、授業内容の理解が促進され、考える活動にも取り組めるようになるのではないかと考えました。

(H 男) [実践事例集より]

長期目標

苦手な活動にも最後まで参加することができる。

音楽個別目標

音楽の授業に参加し、学年相応の鍵盤ハーモニカの技能を身に付ける。



自立活動短期目標

姿勢や指先を意識しながら鍵盤ハーモニカの練習に取り組むことができる。

鍵盤ハーモニカが苦手なH男さん。苦手な活動への参加という長期目標をより具体化した音楽の短期目標達成を下支えするために、自立活動で、姿勢保持力や手指の巧緻性向上、練習成果実感による苦手な活動に向かう態度の育成を、鍵盤ハーモニカの練習を題材にねらいます。音楽の短期目標達成を下支えするイメージで

“2つの側面から”の例

長期目標

友達に何か指摘されたときに、感情的にならずに落ち着いて友達に応答できる。

国語個別目標

気持ちを表す言葉を10種類覚え、それを使った体験文を書くことができる。



自立活動短期目標

アンガーマネジメント6秒ルール具体的な方法を覚え、ロールプレイすることができる。

感情的にならずに落ち着いて応答という長期目標のために、国語では感情語の語彙拡充と活用を、自立活動では感情コントロールスキルを身につける、長期目標達成のために、各教科と自立活動の指導の2つの側面からアプローチするイメージです。

STEP 6

指導の手立て選定

自立活動や各教科等の短期目標を達成するために、実際にどんな工夫をしたり、どんな教材を使ったり、どんな環境調整をしたりするのかを、教科・領域ごとに考えるプロセスです。指導の手立てを考えるときには、次のことを大切にしたいです。



困難さの原因を見つめて…

表面上は同じ困難さでも、その背景によって効果的な手立ては異なります。困難さの背景にも目を向けて、それに応じた指導の手立てを選ぶ必要があります。

「困難さの背景を見つめる」例えば…

「板書の視写に時間がかかる」

板書内容を覚えられ
ず、黒板を見返す回数
が多く時間がかかる

記憶トレーニング、手
元に板書プリント用意

不器用でマスの中
に収めて書くのに
時間がかかる

運筆練習、マス目の
大きなノート使用



合理的配慮を意識して…

子どもが今現在もっている力を発揮し十分な学習参加が行えるよう、合理的配慮を行うことも指導の手立てとして積極的に検討したいです。



得意なことを生かして…

自立活動は子供の困難さにアプローチするので、子供のモチベーションがなかなか上がらないことも…。子供が意欲的に学習に取り組むためにも、“得意なこと”や“できること”を指導の手立てに積極的に取り入れたいです。

「得意なことを生かす」例えば…

見たり経験したりしたことへの理解力や記憶力高い

操作的・体験的活動の導入

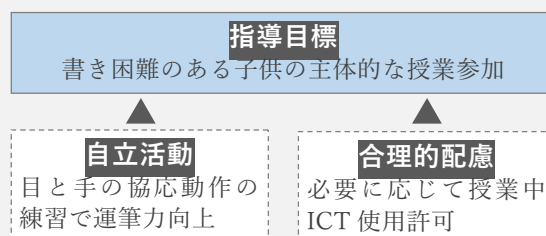
下級生の面倒見がよい

下級生に教えることを学習の目的として設定

CHECK

自立活動と合理的配慮との関係は、以下の2点から整理できます。(この冊子では②の関係を中心に解説しています。)

- ①本人が合理的配慮の提供を求めるために必要な「状況を認識する力」や「意思表示の力」を、自立活動で育てる。
- ②指導目標の達成のために、自立活動と合理的配慮の両面からアプローチする(下図)。



“困難さの背景→手立て”の例

(「自立活動実践事例集」より)

学習上の困難さ→手立ての例

困難さの内容	困難さの背景	自立活動指導内容と手立て	文献・教材等
文字が書けない。	・似た字を区別できない。 ・鏡文字を書く。	<指導内容> ・視空間認知を高めるトレーニングをする。 【環（5）】 <指導の手立て> ・タングラムを行う。 ・指定された物と同じ者を探し出す。	発達の気になる子の学習・運動が楽しくなるビジョントレーニング（ナツメ社）
	・文字を想起できない。	<指導内容> ・短期記憶力を高めるトレーニングを行う。 【環（5）】 <指導の手立て> ・記憶して書き出す「位置記憶」トレーニングをする。	SAKURA.H.Qメソッド-HQとワーキングメモリ実践（どりむ社）

生活上の困難さ→手立ての例

困難さの内容	困難さの背景	自立活動指導内容と 手立て	文献・教材等
整理整頓ができない。	・不器用な面があり、プリントを上手に折れない。 ・物を出すまでに時間がかかる。	<指導内容> ・指を動かす活動を取り入れ、手指の巧緻性を高める。 【身(5)】 <指導の手立て> ・折り紙を折る ・紙をそろえる ・物の出し入れの時間を確保	季節のかんたんおりがみ(小峰書店)
	・机の回りに物が落ちている。 ・道具箱や机から物がはみ出す。	<指導内容> ・視覚的に物事を捉え、イメージできるようにする。 【環(5)】 <指導の手立て> ・パズルを使う。・眼球運動を行う。	ビジョントレーニング 北出 勝也(図書)

コラム ～特別支援学級・通級指導教室における自立活動の指導の理解を促すために～

子供たちが自立活動の指導で身につけたことを通常の学級でも生かすことができるようにするには、交流学級の担任の先生にも自立活動の指導について理解していただく必要があります。

- ・ 自立活動の指導の内容を伝え、通常の学級でも同じように実践してもらう。
(できれば褒めてもらうことで、さらに般化できるようにする。)
- ・ 特別支援学級・通級指導教室での自立活動の授業を通常の学級の先生方に公開する。
- ・ 校内支援委員会において、自立活動の意義や子供たち一人一人に対する指導内容を伝えることで共通理解を図り、同一步調で指導できるようにする。



STEP 7

指導の実践

これまで立ててきた計画に基づいて、実際に子供の指導をするプロセスです。

直感や思い込みが正確な判断を歪ませてしまう例はたくさんあります。正確な評価のために、
ともすると埋もれがちな小さな進歩を確実に見取るために、実践の**記録は必須**。特に、短期目
標に対しての達成度の記録を、○×や数値、エピソードで積み重ねましょう。記録用の書式を
作っておくと日々の記録の負担感は軽減します。

STEP 8

形成的評価

完璧な実態把握や指導計画ができないと、指導が開始できない、なんてことはありません。ある程度指導計画ができたなら、あとは実践を開始して、その都度評価をしながら、指導の改善を図っていきましょう。

形成的評価とは、文字通り「形成していくための評価」すなわち、「作り上げていく・進めていく過程で必要な評価」のことです。学習の進め方、つまずきの要因、教材の適切性など、授業を進めてみて初めて明らかになってくる課題が評価の対象です。細かくチェックを行って教師の指導を改善したり、子供の学習を促進させたりするために行われます。

「いつ評価するの？」

- ・指導の途中。つまり、授業の途中で評価する。
- ・「1週間」，「指導5回分」等，一定期間決めて評価する。

「どんな評価方法があるの？」

- ・観察法・・・その場で子供の活動状況や態度を観察する。
動画や画像を撮ったり、エピソードを記録したりしておく。
- ・自己評価・・・その場子供自身が自分の学習を振り返る。(○×, 表情マーク, 文章で記述)
- ・相互評価・・・子供同士が互いに評価しあう。
- ・パフォーマンス評価・・・予め評価規準(ルーブリック)が決まっており、その評価規準に沿ってパフォーマンスができたか否か、あるいは出来映えを評価する。
- ・ポートフォリオ・・・子供の学習活動の過程や成果などの記録や作品を計画的に集めて、学びのプロセスを評価する。その時感じたメモやシートなどをファイリングしておく。

形成的評価

実態把握の見直し
計画の修正

STEP 8 総括的評価

実践の評価を行うプロセスです。指導効果の適切な評価のためにも、主観的な評価だけでなく、客観的な評価も心がけましょう。評価の際、大切にしたいことは以下の通りです。

困難さの状態は好転しましたか？（目標は達成しましたか？）



自立活動は困難さにアプローチする指導領域です。1時間1時間の評価も大切ですが、その積み重ねによって困難さの状態は好転したでしょうか…？回数、頻度、時間等を数値化するなどして、客観的に評価しましょう。目標達成なら次の段階もしくは別な目標を。未達成なら目標の難易度を下げたり指導の手立てを再検討したりする必要があります。

指導の手立ては有効でしたか？



指導の手立ての有効性の検証もとても大切。特に、合理的配慮の有効性を評価の積み重ねによって客観的に示すことができれば、入試の時、特別措置として認められる可能性があります。

子供は学びを自己評価していますか？



子供自身が学びの意味を考える上でも、子供の自己評価はとても大切。子供は学びの成果を実感できていますか？

保護者と評価を共有していますか？



保護者と一緒に評価を共有することで、子供の成長と一緒に喜びたいです。

総括的評価
↓
次の計画へ反映

おわりに

「自立活動の指導は難しい」「何をしてもよく分からない」という先生方の声から「すんなり自立活動」は生まれました。是非、先生方の側に置いて、自立活動の指導に悩んだときや迷った時に、手にしていただけたらと思います。そして、子供たちの「困難さ」を少しでも軽減できるよう、「なぜこのような指導を行うのか」という指導の根拠を明らかにし、先生方が自信をもって自立活動の指導に取り組んでいただく一助となることができたらとてもうれしく思います。

茨城県教育研修センター特別支援教育課

参考文献

文部科学省（平成 30 年 3 月） 特別支援学校小学部中学部高等部学習指導要領解説自立活動編

茨城県教育研修センター特別支援教育課（平成 28 年 3 月） 特別支援学級スタート応援ブック第 2 版

古川勝也，一木薫 編著（2016 年） 自立活動の理念と実践～実態把握から指導目標・内容の設定に至るプロセス～ ジアース教育新社

海津亜希子（2017 年） 学習障害（LD）のある小学生中学生高校生を支援する個別の指導計画作成と評価ハンドブック 学研

安藤隆男（2017 年） インクルーシブ教育システムにおける自立活動の意義と展開 実践障害児教育 2017 年 8 月号 p.40-45 学研

萩庭圭子（平成 29 年） 自立活動の充実について 特別支援教育平成 29 年春 p.42-45 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課



「小・中学校の先生のための自立活動の指導プロセス解説 ―すんなり活動―」

1 研究助言者

国立大学法人筑波大学 教授 安藤 隆男

2 研究協力員

小美玉市立堅倉小学校 教諭 中山 恵
鹿嶋市立三笠小学校 教諭 齋藤 真由美
筑西市立養蚕小学校 教諭 江連 紀子
常総市立石下小学校 教諭 根本 里美
水戸市立内原中学校 教諭 小泉 俊子
大洗町立第一中学校 教諭 兼巻 照美
県立北茨城特別支援学校 教諭 石川 繭子
県立境特別支援学校 教諭 山口 瞳

3 県教育研修センター

所 長 安藤 昌俊
特別支援教育課長 藤森 幸子
大川 行彦 [平成 29 年度]
特別支援教育課指導主事 平田 勝
本城 知子
熊澤 つむぎ
平川 聡
大木 勉 [平成 29 年度]
安藤 尚徳 [平成 29 年度]

すんなり自立活動
小・中学校の先生のための自立活動の指導プロセス解説
平成 30 年 12 月

編集 茨城県教育研修センター特別支援教育課
〒309-1722
茨城県笠間市平町 1410
電話 (0296)78-4437 (特別支援教育課直通)
FAX (0296)78-2122

